

日光白根山新雪トレーニング山行報告

【山行日】2022年 12月 18(日) 曇り

【集 合】栃木市運動公園P AM 4:30

【費 用】マイカー1台 : 2,000円

【メンバー】CL:鈴木、SL:廣瀬

小林、福島、藤原、吉田

【コースタイム】栃木市運動公園 P4:30=菅沼登山口

P6:30~弥陀ヶ池 8:40/9:00~菅沼登山口 P

10:00/10:20=大谷 PA11:50/12:30=栃木市運動

公園 P13:00



毎年恒例の日光白根山新雪トレーニング山行

を計画したが、天気予報では今季最強の寒波により山は大荒れの予報が出ていた。前日、天気予報を確認し、風は強いが弥陀ヶ池までは行けそうなので、アイゼン歩行トレーニングとして決行した。

4時30分に栃木市運動公園を出発し、東北道から日光宇都宮道路を進むと、日光ICと清滝IC間

が通行止になっていた。日光市街を抜けているは坂を通り、いつものように赤沼トイレに寄りトイレを済ませる。いろは坂から戦場ヶ原までは雪が無く、金精道路に入ると雪が出てきたが例年より少ない積雪である。金精トンネルを抜けるとさすがに雪の量が多くなり、軽自動車が路肩の雪に突っ込んでいた。菅沼登山口Pにも雪が20cmほどあり、車を何回か往復させて雪を均して駐車する。車は2台しか止まっていなかったが、我々が出発の準備をしていると



次々に車が来て止められる。いつもはアイゼンを弥陀ヶ池まで付けずに登るが、今日はアイゼン歩

行トレーニングなので最初から付けることにする。雪山登山が初めての K 林さんに、アイゼンの付け方を教えながら付けさせる。アイゼンを付けたらストレッチを済ませ、出発する。駐車場からゆるやかに登り、案内板の所を右に曲がって進み谷沿いの道を登って行く。アイゼン歩行のレクチャーをしながら歩き、しばらくして右側の斜面に取り付く。ここから急坂を登るようになり、雪は20~30cm 位あるが、昨日は大勢登ったようでしっかりトレースが付いていて歩き易い。30分程登った所で小休止し、衣服調整と水分補給を行う。樹林帯の道は風も無く穏やかで、汗ばんできたので上衣を1枚脱ぐこと



にする。シラビソの枝に雪が積もりクリスマスツリーのように、きつい登りも楽しく登れる。

快調に高度を上げ、上を見上げると上空の雲の動きが早く風の音が轟々と唸っていた。弥陀ヶ池まで0.9Kmの標識が立つ所で休憩し、疲れた足を休めて水分を補給する。ここからは傾斜が緩くな



り、座禅山の東斜面を巻くように進むと弥陀ヶ池に出る。池の西岸を進むが、雪が吹き溜まって膝まで潜り歩く難い。雪に隠れた木道の上を歩くように進むが、外すと股まで潜り足を抜くのに苦労する。ようやく弥陀ヶ池の南岸に着くと、風がハンパ無く強い。この風では山頂に向かうのは危険と判断し、ここから引き返すことにした。記念写真を撮るが、風が冷たく顔が痛い。誰かが「目出し帽は被らないのですか？」と言ったが、池の北畔まで戻れば大丈夫と被

らなかった。弥陀ヶ池の北畔まで戻ると、十数人のグループがアイゼンを付けていた。我々は奥の平らな場所に行き、休憩を取ってリンゴや菓子をいただく。グループが出発するのを待ったが、中々出発しないので我々が先に下山する。次々に登山者が登って来るが、皆さん「山頂まで登ったのですか？」と聞かれ「風が強いので弥陀ヶ池で戻りました」と答える。おそらく、皆さん途中で撤退することになるだろうと思った。下りは皆さん余裕で会話が弾み、楽しく話をしながら下って行く。途中、平らに開けた場所で休憩し、どら焼きやゼリーを食べてエネルギーを補給する。ここから一気に下り、菅沼登山口に無事戻った。登山口まで下ると青空が広がり、晴れ間が見えるようになる。山頂まで登ることが出来なかったが、フカフカの新雪を楽しみながらアイゼン歩行が出来、皆さん満足した様子で安心した。



靴を履き替えて、荷物を積んだら車に乗り帰路につく。金精トンネルを抜けると晴れていて、雪も融けて無くなっていた。

東北道の大谷PAに寄って昼食を食べ、予定より大幅に早く栃木市運動公園へ帰着した。